

できましたが、まだまだ会の運営には予断を許さない状況であると思います。当面する課題の解決に役職員が一体となってこの危機を乗り越える方策を打ち出すことが肝要かと思えます。

鑑みますと、千葉県婦性会を興した先覚者は、ボランティアとして罪を犯した人々を受け入れ、それらの人々を家庭的な雰囲気の中で寝食を共にする形でその悩みを聞き、励まして立ち直りを助けてきましたがこのような民間ならではの細かい処遇が更生保護事業を特徴づけております。千葉県婦性会としては、このようなよき伝統を大切にしながら、更生保護事業の担い手としてその役割を果たしたいと思えます。

更生保護施設は、地域社会の中にあり、その運営に当たっては、地域の方々の御理解と御協力が不可欠です。特に、保護司、更生保護女性会、BBS会員、協力雇用主、賛助会員の皆様の御理解が大きな支えとなっておりますので、引き続き御支援をよろしくお願いいたします。



画：小畑氏



再犯防止に向けての期待



千葉県保護観察所
統括保護観察官
石渡 茂雄

平成二十四年七月の政府による犯罪対策閣僚会議において策定された「再犯防止に向けた総合対策」では、刑務所出所者や少年院出所者のうち二年以内に再び入所・入院した人の割合を今後十年間で二割以上減らすことが掲げられました。

その対策では重点事項として、①対象者の特性に応じた指導・支援の強化、②社会における「居場所（住居）」と「出番（就労）」作り、③効果検証等を踏まえた新たな対策の検討・実施、④広く国民に理解され、支えられた社会復帰の実現の四項目が掲げられていますが、その中の一つである「出所者等の居場所・出番作り」は、まさに更生保護施設が従来から果たしてきた役割でありますが、今後、その期待が強く求められる内容でもあります。

また、高齢受刑者が年々増加傾向にある現状や刑の一部執行猶予制度の導入を見据えると、薬物依存対象者の増加も予想されます。これらを考えると住居や就労等の生活基盤の確保を支援することのみにとどまらず、一方で対象者の特性に応じた社会復帰を援助したり、社会処遇の役割を果たしたりする機能がより一層求められていくこととなります。

千葉県婦性会においては、受入者数の実績を

上げられているほか、高齢者、薬物事犯者等を代表とする自立困難者も積極的に受け入れ、またSSTやAAミーティングを取り入れた処遇に取り組んでいる現状ですが、今後は福祉や医療等の関係機関・関係団体等との連携強化が一段と必要となっていきます。

社会において、保護観察対象者等が真に自立し生活していく架け橋として、年々、更生保護施設に対する役割は大きく、その重要性も高くなっています。対象者の改善更生と再犯防止に向けて関係者の方のもとより、地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

着任のご挨拶



千葉県保護観察所
保護観察官
野口 裕司

本年四月一日に千葉県保護観察所に着任し、千葉県婦性会を担当させていただくことになりました。

今まで更生保護施設担当官の経験がなく、実際には限られていたのですが、業務に従事してみると、行き場のない刑務所出所者等を積極的に受け入れて「居場所」を確保し、受け入れた者たちについて多様な方法を用いて「出番」を確保してくださっているだけでなく、退会者からの相談にも応じ、必要な支援を行うなど、在会者だけでなく施設を退会した者の「抛り所」にも